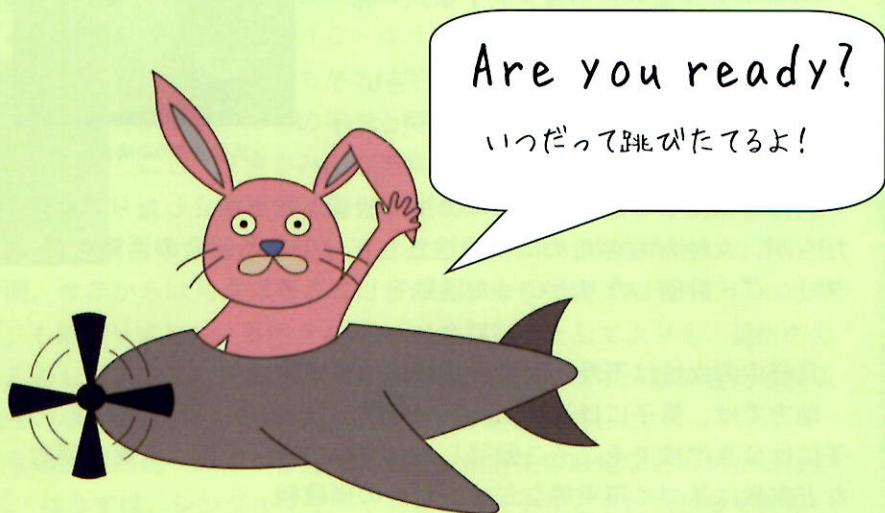




ニュースレター VOL. 10

(2016. 9)



HOT !

● eかんぱにい リレーコラム「私らで、和歌山変えていこ➤」

[開催レポート]

・平成 28 年度 総会記念講演会

「子どもたちの未来（あす）を支えたい～こ・はうすの実践から～」

・エンパワー・エンカレッジ研修会 2015

「わたしの明日、わたしらしく彩るために」

私らで、和歌山変えていこ➔



和歌山 e かんばにいのフレッシュな仲間を紹介します！ 今年5月から、和歌山県男女共同参画センター「りいぶる」の新しいスタッフとして活躍してくださっている、中嶋悦子さん。皆さま、どうぞよろしくお願ひします♪

はじめまして。中嶋悦子です。

紀の川市で1歳8か月のやんちゃ盛りの男の子を子育て中です。

20代で青年海外協力隊としてネパールにボランティアに行きました。

配属先は郡の“女性開発事務所”というところ。与えられた使命はネパールにおけるジェンダー啓発活動でした。

村落を巡回しながら戦後日本の生活改善活動を紹介したり、女性たちが、女性たちのために、女性たちだけで作る組合の活動をモニタリング・評価したりといった活動をしてきました。

月経中の女性は不浄。女性の再婚には否定的。

地方では、男子には進学し、“いい国”に出稼ぎに行くことを、女子には公立学校でそこそこ勉強したら“いい家”へ嫁ぐことを望む、など宗教に基づく不平等なジェンダーの価値観。

驚きと同時に数十年前の日本社会を見たような気もしました。

りいぶるではそんな世界の女性の置かれている状況に目を向けてもらえるような活動をしたいと思っています。また、子育て真最中のママとしての視点も生かせたらと思います。

和歌山の女性が、“いつでも” “いつまでも” 自分らしく、そして“やりたいことをやりぬく” 生き方ができるように、私自身もそれに挑戦しながら、サポートしていけたら幸いです。

どうぞよろしくお願ひします。



活動当時の中嶋さん

子どもたちの未来（あす）を支えたい

～こ・はうすの実践から～

講師 馬場潔子さん(子どもの生活支援ネットワークこ・はうす事務局、社会福祉士)

6月26日 りいぶる会議室 A

2015年1月、和歌山市内の一軒家で始まった「こ・はうす」の取組。立ち上げから関わる馬場さんは、自身が子育てをしているときに見聞きした経済的に厳しい家庭や、障害者の就労支援の仕事に関わったいくつもの困難を抱える家庭の存在から子どもの貧困に関心をもつようになり、子どもも親も安心できる居場所をつくりたいと「こ・はうす」を立ち上げました。



週1回子どもたちは学校が終わると、こ・はうすを訪れボランティアの学生と宿題をしたり一緒に遊んだりして過ごし、夕食をみんなで食べる。「今日なに食べたい?」「ちょっと作るの手伝って」「いいニオイするなあ(とつまみ食い)」「おかわり!」など、何気ない会話をかわしながら過ごす時間。

今年からは月2回子どもたちの食事作り体験「おうちごはんビギナーズ」も始まりました。馬場さんは、「社会福祉士としてよりも、近所のおばちゃんとして、そんな距離感でやりたいと思っています。顔の見える関係性や地域のなかで行いたいと考えています」と話されました。

子どもの貧困問題への国や自治体の取組、他府県の取組なども紹介しながら、「こ・はうすは、シングルマザーや共働き家庭の子どもたちが多く利用しています。子育て世帯は経済的だけでなく関係性も貧困だといえます。自己責任や母親にもっとがんばれという社会的な抑圧は解決にはなりません。また子どものときに信頼できる大人と関わる経験は、成長したときにSOSを出せる力になります。孤立を防ぎつながれることが大切です」と語られました。

後半は参加者との交流タイムとして、同様の取組を考えている方や関心を寄せる方々からの馬場さんへの質問や自身の活動紹介などもあり、講師と参加者相互の新たなつながりがうまれる時間となりました。(井上)



身近なテーマで女性の生き方やジェンダーの視点などに気づくための連続講座。今回は、「男女共同参画」「法律」「母娘関係」「世界の現状」について学びを深める機会になりました。

【1回目】映画鑑賞感想文コンテスト受賞者表彰式 講演「男女共同参画の現在（いま）と未来（これから）」

前半は、2015年11月に開催した、ドキュメンタリー映画「何を怖れる フェミニズムを生きる女たち」の鑑賞感想文コンテスト受賞者表彰式を行いました。

【受賞者】最優秀賞：落合彩矢さん（写真前列中央）

優秀賞：稲垣晶子さん（所用で欠席のため後日授与）

佳作：宮本京子さん（落合さん右となり）



後半は、記念講演として、男女共同参画センター「りいぶる」所長、山中浩子さんから、男女共同参画の基本的な知識と現状や課題、今後の展望について、山中さんの「働く女性」としてのご経験も交えながらわかりやすくお話いただきました。

【2回目】「いざというとき、法律がチカラになる」



人生の様々な場面で、困ったときに活用したい法律。でも弁護士に相談するのはなんだか気後れする、そう感じる女性のための法律講座開催しました。講師の沖本易子弁護士から、離婚や相続に関する様々な法律知識について、事例をもとにわかりやすくお話いただきました。

子どもがいる場合に離婚したときの養育費や、DVの被害がある場合など、また既婚女性のケースだけでなく単身女性の相続などにもふれ、後半の質問タイムにも具体的な質問をされる方々が目立ちました。アンケートにも「なかなか聞く機会がない内容なのでよかった」「いざというときのために参考になった」などの感想をいただき、大変好評でした。

【3回目】「母との関係を考える～自分自身の人生を生きるために～」

以前からメディアで取り上げられることも多い「母」と「娘」の関係。「毒母」という言葉も出現した昨今の「母娘関係」を考える講座を開催しました。

講師の津村薫さん（女性ライフサイクル研究所副所長）



が会場から寄せられた質問や悩みにこたえながら、参加者全体が自分らしく生きるために振り返り、想いを共有した時間でした。母との関係に苦しみ、傷ついてきた娘たちがいかに多いか、そしてまた自分が母になり娘との関係に悩む女性たち。津村さんの心に届く温かい語り口に、うなずきながら涙される方々も多かったです。途中のストレッチタイムでは楽しくリフレッシュもでき、前向きに歩めるきっかけになったのではないかと感じた講座でした。

【4回目】「本当の幸せとは～ベトナムの支援活動から考える～」

最終回は、湯浅町出身の竹中麻衣子さんをお招きし、15年にわたるベトナムでの自立支援活動からみえてきた本当の生き方などについてお話いただきました。

貧困やHIV感染に苦しむ人たちが自立するため、手縫いの風呂敷から始まった「maiko project」。実際にベトナムを訪れた際の映像なども見せていただき、経済発展のなかで見過ごされていく貧しい人たちやストリートチルドレンに寄り添い、生きる道をつくろうと活動されている竹中さんのお話に、自分たちの生き方や日本の社会のあり方を見つめなおす機会になりました。後半のヨガ体験は、まるで時間がとまったかのような静寂のなか、自己との対話の時間をもつことができました。「maiko project」の作品もたくさん見せていただき、フェアトレードについても知る機会になりました。



eか・ん コラム

eかんばんに おすすめ♡ブック♡

“りいぶる” 図書室から、スタッフ選りすぐりの蔵書をご紹介します。どなたでも貸出できます♪ ぜひお立ち寄りください。

上野 千鶴子対談集

セクシュアリティをことばにする

出版社：青土社

社会学者、上野千鶴子さんの対談集。カウンセラー、作家、フェミニスト、障がい者の視点から等々…様々な分野の人たちと「性」「ジェンダー」「母娘」など幅広いテーマを本音で語りあう。

日本では、女性が「性」について語りづらい。社会には女性を性的対象としてしかみない男性からの言葉が横行している。

女性が語る女性にとってのセックスとは？ 性の自由とは？

人間は、性的な自由が根源であり、そこを避けてはフェミニズムも、自分らしく生きる道もないのではないかと思う。時々読み返しては社会の流れに取り込まれそうになる自分に気づかせてくれる「こういうことが聞きたかった」一冊。ぜひ一読を。

コミックエッセイ

女どうして子どもを産むことにしました

東小雪・増原裕子
すぎやまえみこ (漫画)
出版社：KADOKAWA

2013年東京ディズニーリゾートで初の同性結婚式を挙げ、2015年には渋谷区パートナーシップ証明書交付第1号としても注目されたレズビアンのカップル、東さんと増原さんが、自分たちの子どもがほしいと決めてからの物語。コミックで読みやすく、用語などの解説つき。

「お父さん」と「お母さん」がいる家族が「ふつう」の家族？ そうでない家族は不幸せ？ 法的な制約や性的マイノリティへの偏見が残るなか、新しい家族を迎えるためにトコトン話し合い最善を尽くそうとする2人。アメリカで出会った同性愛のファミリーたちが言う「大切なのはHonest（誠実）であること」。日本もきっと、今は「ふつうじゃない」ことが「あたりまえ」になる日がくる。まずは知ってほしい。

知っ得！なっ得！ジェンダー用語

ジェンダー用語って、毎日生きる上で得はあっても損はないものばかりです♪ 今回はこの2つをチョイス！

— 男性学 —

1970年代、欧米を中心に発展した「ウーマン・リブ」の影響から様々な男性運動が登場し、そこから「男性学」も生まれました。日本でも伊藤公雄さん（京都大学教授）らが先駆的に研究を進め、男性グループ「メンズリブ研究会」なども各地で立ち上げられました。最近でも、田中俊之さん（武蔵大学助教）などの「男らしさ」ととらわれない生き方を提唱する著作が目立ちます。性別役割意識やジェンダーは根深いまま女性活躍を進めようとする社会のなかで、男性中心の働き方から抜け出せない男たち。理想と現実のはざままで男性自身が生きづらさを抱え、これまでの価値観にNOと声をあげる男性も出現しています。「男のよらい」、そんなものはもう脱ぎ捨てよう。

男性も女性も、これまでのとらわれを外せば生きやすい。実際、我が家では、「男が養うべき」派だった夫も、妻が働くのを渋々サポートするうち自身の働き方に疑問を抱くように。仕事だけが人生じゃない、妻が働くのはデメリットではない、家で掃除や洗濯をしているときの方が心地良いと「家事ダン」に転向しました。今からでも遅くない、あなたも脱ぎ捨てませんか。

— 女性参政権行使 70年 —

7月10日に行われた参議院選挙、皆さま投票に行かれましたか？

結果についてはここでは論じませんが、今回の女性立候補者は96人、当選者は28人。過去最大の当選者数となり、女性議員の割合も23.1%で過去最高だったといえます。参議院の女性議員は50人となりました。しかし、諸外国に比べると依然として低い水準です。

くしくも70年前の昭和21年4月10日、戦後初めての衆議院選挙が行われ、約1380万人の女性が初めて投票し、39名の女性国会議員が誕生しました。今、私たちが当然の権利として得ている参政権が、敗戦するまで女性にはなかったなんて想像できますか？ またそこに至るまでに、「婦選は鍵なり」と、1920年代から女性参政権運動を展開した市川房枝さん、「元始、女性は太陽であった」と宣言した女性解放運動家の平塚らいてうさんなど、女性の権利や地位向上に尽力された女性たちの存在なくしては語れません。

権利の獲得はたやすくありません。しかし、しつこい性格の私は、「ええい、誰もが生きやすい社会のためにあきらめないぞ」と誓ったのでした。

エンパワー・エンカレッジ研修会2016やります!

今年は「アサーティブ・コミュニケーション」連続講座です。

日常生活のなかで、なかなか対等に人との関係をつくれないう、自分の思いや考えをうまく伝えられない、そんな悩みを解決するきっかけとなる、対人コミュニケーションについての講座です。12月に4回連続で開催を予定しています。楽しく参加できる講座です。

あなたがあなたらしく生きていくために、「あなたらしさ」に気づく機会にしてみませんか?

詳しく決まりましたら、和歌山eかんぱにいのフェイスブックなどでお知らせします。お楽しみに〜〜(^.^)/~~~~

あなたも会員になりませんか?

和歌山eかんぱにいは、平成 21 年5月に認証された特定非営利活動法人です。一人ひとりが持てる力を十分発揮できる男女共同参画社会の実現をめざしてさまざまな活動を展開し、ふるさと和歌山を元気にすることを目的としています。平成 22 年より、県男女共同参画センターの一部事業を受託、様々な企画・運営を行っています。

お問合せ・お申込みは下記まで

—あなたらしく生きる、キーワードは3つのe—

特定非営利活動法人 **和歌山eかんぱにい**

〒640-8323 和歌山市太田 2-4-24

TEL 080-4645-2424

FAX 073-471-5557

E-Mail ecompany821@gmail.com

ホームページ、フェイスブックもやっています♪

和歌山eかんぱにい

